

【文学部人間学科】

文学部人間学科は、本学の建学の精神、中でも「人間教育の最高学府たれ」との精神に基づいて、人間性豊かで、学識の深い教員を養成することを目指す。すなわち、生徒の幸福を最大の価値と見なして、生徒の持つ力を最大限に信頼し、活かそうとする教員、十分な専門教養を持つ教員の養成を目指す。

また、文学部人間学科は、三つの指針を掲げている。その第一の指針「生命尊厳の探究者たれ！」に基づき、一人ひとりの個性と可能性を尊重できる教員を養成する。また、第二の指針「人類を結ぶ世界市民たれ！」に基づき、世界市民としての広い教養を備え、チームワークで教育に当たる教員を養成する。そして、第三の指針「人間主義の勝利の指導者たれ！」に基づき、現場対応力があり、リーダーシップを発揮できる教員の養成を目指す。

以上の理念の下、以下に述べるような力を具えた教員を養成することを目指す。

1. 一人ひとりの個性と可能性を尊重できる教員

文学部人間学科は、言語系・人文系・社会系の3つの領域に11のメジャー（分野）、1専修を配置している。すなわち、英語・社会(高校は地歴・公民)・国語の教員を目指す学生は、それぞれのメジャーに属しながらも、他の領域・他のメジャーの科目を履修することが可能であり、推奨されている。建学の精神を学ぶ大学科目（共通科目・選択必修）や文学部三指針について学ぶ「人間学」（必修）や教職課程科目の他、学部が提供する多くのリベラルアーツ科目を学ぶことにより、生命の尊厳を多面的な角度から探求できる教員を養成する。

2. 広い教養を備え、チームワークで教育に当たる教員

教師の授業力が問われている現代、正確な学問理解なくしてよい授業を行うことはありえない。「英語」「国語」「社会」「地歴」「公民」において、教室で出される生徒の疑問点に的確に答えるには、それぞれの教科について免許法が要求する最低単位の科目を学ぶだけにとどまってはならない。文学部人間学科ではそれぞれの教科について、さらに多くの関連科目（その教科の理解を深めるのに役立つ科目）を推奨科目として示し、履修するように促している。また、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を多く開設し、一方通行型の授業ではない、協働型の授業科目を履修する事を通して、生徒・教員がチームとなって啓発し合う教育活動を行うことができる教員を養成する。

3. 現場対応力があり、リーダーシップを発揮できる教員

学校で起こるさまざまな問題に対して、正しく捉え分析する力を養うために、教育実習や介護実習以外にも、学校インターンシップや学校ボランティアを利用して、早い段階から学校現場に触れる機会を用意している。また、初年次教育のSAを務めることを推奨し、クラスをまとめる力を養うよう促す他、ゼミ担当教員にも教職を目指す学生がリーダーシップを身につけられるよう、意識的に指導することを求めている。さらに、正課外ではあるが、年に数回、「教職学生大会」を開催し、現役教員や教員経験者等を招き、学校現場の取り組みについて報告してもらい質問・相談会を行っている。豊かな経験と、教育現場の現実を正しく認識できる広い視点を持ち、現実の生徒たちを指導できる教員を養成する。

＜文学部＞（高等学校教諭1種 英語）

各学年における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>大学科目（選択必修）を通して建学の精神を学び、「人間学」（学部必修科目）を通して文学部三指針を学ぶ他、「アカデミックスキル基礎」（必修）でアクティブ・ラーニングの手法を身につける。それらと共に英語教師としての素地を養うための英語に関する知識と英語力を身につけることを目標とする。具体的には、英語を運用できる能力を養うために「Oral Communication」でスピーキング能力を育成する。さらに英語の音声や語の分析能力を養い、英語という言語への理解を深めるために「英語学概論」の学習を開始する。卒業するまでに英検準1級に合格することを目指す。さらに、教職科目では、「教職概論」を履修して、教職の意義や職務内容等を理解し、教職選択の可否を自覚的に判断する。</p>
	後期	<p>引き続き「英語学概論」で英語に関する知識を深めるとともにグローバル科目の履修を通して英語運用能力（4技能）を高めることを目標とする。教職専門科目では、「教育原論」「教育心理」を履修して、教育をめぐる問題や教育心理学の基礎的知識を習得する。</p>
2年次	前期	<p>「英語科教育法Ⅰ」の学習を開始して、学習指導要領の内容を理解するとともに、指導の目標や指導技術に関する知識を身につけることを目標とする。さらに「英米文学概論」や「比較文化」の学習を通して、英語を教える上で必要となる文学に関する知識やその読み方、または異文化理解を深めることを目指す。他に、「生徒・進路指導論：教職」「教育相談」を履修して、生徒指導や進路指導の問題と課題を理解し、学生自身の教育相談のあり方を構築する。</p>
	後期	<p>「英語科教育法Ⅱ」の学習において、「英語科教育法Ⅰ」で学習した内容をもとに指導案の作成と模擬授業などの実践的な経験を積むことで指導計画の立案と授業の構成を理解し、さらには指導技術を身につけることを目標とする。引き続き、英語学、英米文学、英語コミュニケーション、異文化理解に関する知識を深めることを目指す。他に、「特別活動：教職」を履修して、教育に必要な人権意識を習得する。</p>
3年次	前期	<p>専門的な演習科目やベーシック科目、アドバンスト科目の学習を通して、第二言語習得論、音声学や英文法などの英語学の知識を身につけるとともに、英米文学に関しての理解を深めることを目標とする。さらに学校インターンを通して教育現場での教師の役割や生徒との関わりについて学ぶ機会を持つことを目指す。教職科目では、「教育行政」を履修し、教育関係の法規を理解する。</p>
	後期	<p>「英語科教育法Ⅲ」の学習において、「英語科教育法Ⅱ」で扱えなかった指導技術についての知識と模擬授業、教材開発などの実践練習を重ねて4年次での教育実習に向けての準備を整えることを目標とする。引き続き、学校インターンでの経験を通して、授業の</p>

		構成や活動内容について具体的に理解することを目指す。教職科目では、「教育方法」を履修し、多様な学習指導方法を習得する。
4年次	前期	演習、学外の教育実習で、現場を想定したプレゼンテーション技法、学習指導案の作成要領を習得することを目指す。3年間で培った英語科指導に関する知識を基礎として、教育基本法の掲げる教育の目的を理解したうえで、教育職に必要な知識力・教育技能を養う。授業展開では、基礎から発展への論理の組み立て方、発問法、手作り教材のほかに、生徒の心理に対応した指導力を向上させる。
	後期	教育実習演習で教育職に就くための資質能力が学生自身の内面に形成されたかどうかを確認し、知識力・教育技能を定着させることを目標とする。教育実習の経験を踏まえて、模擬授業の水準を向上させるとともに、さらに「英語科教育法Ⅳ」では近隣中学校で実習をする機会を通して、教育現場で対応できる指導力を磨く。

＜文学部＞（中学校教諭1種 英語）

各学年における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学科目（選択必修）を通して建学の精神を学び、「人間学」（学部必修科目）を通して文学部三指針を学ぶ他、「アカデミックスキル基礎」（必修）でアクティブ・ラーニングの手法を身につける。それらと共に英語教師としての素地を養うための英語に関する知識と英語力を身につけることを目標とする。具体的には、英語を運用できる能力を養うために「Oral Communication」でスピーキング能力を育成する。さらに英語の音声や語の分析能力を養い、英語という言語への理解を深めるために「英語学概論」の学習を開始する。卒業するまでに英検準1級に合格することを目指す。さらに、教職科目では、「教職概論」を履修して、教職の意義や職務内容等を理化し、教職選択の可否を自覚的に判断する。
	後期	引き続き「英語学概論」で英語に関する知識を深めるとともにグローバル科目の履修を通して英語運用能力（4技能）を高めることを目標とする。教職専門科目では、「教育原論」「教育心理」を履修して、教育をめぐる問題や教育心理学の基礎的知識を習得する。
2年次	前期	「英語科教育法Ⅰ」の学習を開始して、学習指導要領の内容を理解するとともに、指導の目標や指導技術に関する知識を身につけることを目標とする。さらに「英米文学概論」や「比較文化」の学習を通して、英語を教える上で必要となる文学に関する知識やその読み方、または異文化理解を深めることを目指す。他に、「生徒・進路指導論：教職」「教育相談」を履修して、生徒指導や進路指導の問題と課題を理解し、学生自身の教育相談のあり方を構築する。
	後期	「英語科教育法Ⅱ」の学習において、「英語科教育法Ⅰ」で学習した内容をもとに指導案の作成と模擬授業などの実践的な経験を積むことで指導計画の立案と授業の構成を理解

		し、さらには指導技術を身につけることを目標とする。引き続き、文学や異文化理解についてさらにその知識を深めることを目指す。他に、「特別活動：教職」を履修して、教育に必要な人権意識を習得する。
3年次	前期	専門的な演習科目やベーシック科目、アドバンスト科目の学習を通して、英語学や英米文学に関する知識を身につけることを目標とする。さらに学校インターンを通して教育現場での教師の役割や生徒との関わりについて学ぶ機会を持つことを目指す。教職科目では、「教育行政」を履修し、教育関係の法規を理解する。
	後期	「英語科教育法Ⅲ」の学習において、「英語科教育法Ⅱ」で扱えなかった指導技術についての知識と模擬授業、教材開発などの実践練習を重ねて4年次での教育実習に向けての準備を整えることを目標とする。引き続き、学校インターンでの経験を通して、授業の構成や活動内容について具体的に理解することを目指す。教職科目では、「教育方法」を履修し、多様な学習指導方法を習得する。
4年次	前期	演習、学外の教育実習で、現場を想定したプレゼンテーション技法、学習指導案の作成要領を習得することを目標とする。3年間で培った英語科指導に関する知識を基礎として、教育基本法の掲げる教育の目的を理解したうえで、教育職に必要な知識力・教育技能を養う。授業展開では、基礎から発展への論理の組み立て方、発問法、手作り教材のほか、生徒の心理に対応した指導力を向上させる。
	後期	教育実習演習で教育職に就くための資質能力が学生自身の内面に形成されたかどうかを確認し、知識力・教育技能を定着させることを目標とする。教育実習の経験を踏まえて、模擬授業の水準を向上させるとともに、さらに「英語科教育法Ⅳ」では近隣中学校で実習をする機会を通して、教育現場で対応できる指導力を磨く。

＜文学部＞（高校教諭1種 国語）

各学年における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学科目での学びを通して、建学の精神について学び、文学部の必修科目「人間学」の履修を通して、文学部の三指針について学ぶ。そして、「アカデミック・スキル基礎」などの少人数科目を通して、アクティブな学びを身につける。また、イントロダクトリー科目の履修を通して、教養基礎の学びを開始する。さらに、中学校国語の目標に沿って、「国語学・国文学」の科目区分における一般的包括的科目である「日本語学概論」「日本文学概論」の学習を開始する。教職科目では、「教職概論」を履修して、教職の意義や職務内容等を理解し、教職選択の可否を自覚的に判断する。

	後期	引き続き、多様なイントロダクトリー科目を学び、世界に対する多様な視点を獲得する。また、前期に引き続き、「国語学・国文学」の一般的包括的な科目の学習を進め、専門教科力を身につけた教員を目指す。教職専門科目では、「教育原論」「教育心理」を履修して、教育をめぐる問題や教育心理学の基礎的知識を習得する。
2年次	前期	学部キャリア教育の中で、職業としての教員について考える機会を設ける。「国語学・国文学」の一般的包括的な科目である「日本語学概論」「日本文学概論」のさらなる学習を進めるとともに、「国語学・国文学」のより専門的な選択必修科目の学習を開始する。また、「漢文学」の学習を開始する。さらに、「国語科教育法Ⅰ」の学習を開始して、教育現場における具体的な国語科指導力を身につける。他に、「生徒・進路指導論:教職」「教育相談」を履修して、生徒指導や進路指導の問題と課題を理解し、学生自身の教育相談のあり方を構築する。なお、この期以降、3年後期までの期間において「学校インターンシップ」への参加を行う。
	後期	「国語学・国文学」の一般的包括的科目の学習を終えるとともに、さらに選択必修科目の学習を継続して、国語科の専門的能力を伸ばす。また、「漢文学・書道」の学習を継続する。さらに、「国語科教育法Ⅱ」の学習を進め、国語科指導力の確立を目指す。他に、「特別活動:教職」を履修して、教育に必要な人権意識を習得する。
3年次	前期	各科目区分の選択必修科目の学習を通して、国語科の学習を深めるとともに、可能な場合は「国語科教育法Ⅲ」の学習を進め、国語科の専門力・指導力を積み上げる。また、演習科目において、国語学・国文学・漢文学の専門力を高めるとともに、国語を適切に表現し正確に理解する能力、議論を通して互いに伝え合う力、チームワークで進める力を高める。教職科目では、「教育行政」を履修し、教育関係の法規を理解する。
	後期	各科目区分の選択必修科目の学習を通して、国語科の専門力を高める。また、演習科目においては、国語を適切に表現し正確に理解する能力を養成し、議論等のアクティブな活動を通して、互いに伝え合う力、チームワークで進める力を高める。それとともに、レポート執筆指導を通して、思考力・想像力を養いつつ、言語感覚を豊かにして、国語に対する認識を深める。教職科目では、「教育方法」を履修し、多様な学習指導方法を習得する。
4年次	前期	演習科目、教育実習において、現場を想定した多様なプレゼンテーションの技法、学習指導案の作成能力を習得する。3年間で培った一般教養・専門教養・教職教養を基礎として、教育基本法の掲げる教育の目的と高等学校国語科の目標を理解した上で、高等学校国語科教員として必要な

		知識力・教育技能を培う。また、卒業論文の執筆を通して、国語運用能力を育成し、言語感覚を磨いて、言語文化に対する関心を深める。
	後期	「教職実践演習」で、教育職を果たしうる資質・能力が形成されたかどうかを確認し、知識力・教育技能を定着させる。教育実習の経験を踏まえて、模擬授業の水準を向上させる。4年間の一般教養・専門教養・教職教養の履修成果を再検討した上で、知識を補充し、さらなる技能の向上を図る。また、卒業論文の完成を通して、国語運用能力を育成し、言語感覚を磨いて、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

<文学部> (中学校教諭1種 国語)

各学年における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学科目での学びを通して、建学の精神について学び、文学部の必修科目「人間学」の履修を通して、文学部の三指針について学ぶ。そして、「アカデミック・スキル基礎」などの少人数科目を通して、アクティブな学びを身につける。また、イントロダクトリー科目の履修を通して、教養基礎の学びを開始する。さらに、中学校国語の目標に沿って、「国語学・国文学」の科目区分における一般的包括的科目である「日本語学概論」「日本文学概論」の学習を開始する。教職科目では、「教職概論」を履修して、教職の意義や職務内容等を理解し、教職選択の可否を自覚的に判断する。
	後期	引き続き、多様なイントロダクトリー科目を学び、世界に対する多様な視点を獲得する。また、前期に引き続き、「国語学・国文学」の一般的包括的な科目の学習を進め、専門教科力を身につけた教員を目指す。教職専門科目では、「教育原論」「教育心理」を履修して、教育をめぐる問題や教育心理学の基礎的知識を習得する。
2年次	前期	学部キャリア教育の中で、職業としての教員について考える機会を設ける。「国語学・国文学」の一般的包括的な科目である「日本語学概論」「日本文学概論」のさらなる学習を進めるとともに、「国語学・国文学」のより専門的な選択必修科目をの学習を開始する。また、「漢文学・書道」の学習を開始する。さらに、「国語科教育法Ⅰ」の学習を開始して、教育現場における具体的な国語科指導力を身につける。他に、「生徒・進路指導論:教職」「教育相談」を履修して、生徒指導や進路指導の問題と課題を理解し、学生自身の教育相談のあり方を構築する。なお、この期以降、

		3年後期までの期間において「学校インターンシップ」への参加を行う。
	後期	「国語学・国文学」の一般的包括的科目の学習を終えるとともに、さらに選択必修科目の学習を継続して、国語科の専門的能力を伸ばす。また、「漢文学・書道」の学習を継続する。さらに、「国語科教育法Ⅱ」の学習を進め、国語科指導力の確立を目指す。他に、「特別活動:教職」を履修して、教育に必要な人権意識を習得する。
3年次	前期	各科目区分の選択必修科目の学習を通して、国語科の専門力を高めるとともに、「国語科教育法Ⅲ」の学習を進めて、国語科の指導力を積み上げる。また、演習科目において、国語学・国文学・漢文学の専門力を高めるとともに、国語を適切に表現し正確に理解する能力、議論を通して互いに伝え合う力、チームワークで進める力を高める。教職科目では、「教育行政」を履修し、教育関係の法規を理解する。
	後期	各科目区分の選択必修科目の学習を通して、国語科の専門力を高める。また、演習科目においては、国語を適切に表現し正確に理解する能力を養成し、議論等のアクティブな活動を通して、互いに伝え合う力、チームワークで進める力を高める。それとともに、レポート執筆指導を通して、思考力・想像力を養いつつ、言語感覚を豊かにして、国語に対する認識を深める。教職科目では、「教育方法」を履修し、多様な学習指導方法を習得する。
4年次	前期	演習科目、教育実習において、現場を想定した多様なプレゼンテーションの技法、学習指導案の作成能力を習得する。3年間で培った一般教養・専門教養・教職教養を基礎として、教育基本法の掲げる教育の目的と中学校国語科の教科目標を理解した上で、中学国語科教員として必要な知識力・教育技能を培う。また、卒業論文の執筆を通して、国語運用能力を育成し、言語感覚を豊かにして、国語に対する認識を深める。
	後期	「教職実践演習」で、教育職を果たしうる資質・能力が形成されたかどうかを確認し、知識力・教育技能を定着させる。教育実習の経験を踏まえて、模擬授業の水準を向上させる。4年間の一般教養・専門教養・教職教養の履修成果を再検討した上で、知識を補充し、さらなる技能の向上を図る。また、卒業論文の完成を通して、国語運用能力を育成し、言語感覚を豊かにして、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てる。

<文学部> (高等学校教諭1種 地理歴史)

各学年における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	本学の建学の精神を大学科目（選択必修）で学び、本学部の三指針を「人間学」（必修）で学ぶ他、本学と本学科の教職課程の理念・目的を「教職ガイダンス」において理解する。また、「アカデミックスキル基礎」（必修）でアクティブ・ラーニングの手法を身につける。それらと共に、共通科目や文学部イントロダクトリー科目で、人文・社会科学関係の幅広い教養を身につけ、そこから学生自身の専攻分野(メジャー)を考える。教職科目では、「教職概論」を履修して、教職の意義や職務内容等を理解し、教職選択の可否を自覚的に判断する。
	後期	前期に引き続き、共通科目やイントロダクトリー科目・ベーシック科目で、人文・社会科学関係の教養を深め、学生自身の専攻分野(メジャー)を決定する。教職専門科目では、「教育原論」「教育心理」を履修して、教育をめぐる問題や教育心理学の基礎的知識を習得する。
2 年次	前期	日本史及び外国史、地理学の必修概説科目（「日本史概説Ⅰ」「西洋史概説Ⅰ」「東洋史概説Ⅰ」「地理学Ⅰ」）を履修し、各分野の概要を習得する。さらに人文・社会科学関係のベーシック選択科目を幅広く履修し、専門的知識を習得する。教職科目では「地理歴史科教育法」を履修し、学習指導案を作成するスキルを習得する。他に、「生徒・進路指導論:教職」「教育相談」を履修して、生徒指導や進路指導の問題と課題を理解し、学生自身の教育相談のあり方を構築する。
	後期	前期に引き続き、日本史および地理学の必修概説科目（「日本史概説Ⅱ」「地理学Ⅱ」）を履修し、各分野の概要を一層広く習得する。さらに、人文・社会科学関係のベーシック選択科目を引き続き幅広く履修し、専門的知識を習得する。教職科目では「社会科教育法Ⅱ」を履修し、学習指導案作成のスキルを伸ばし、教育法の習熟を目指す。他に、「特別活動:教職」を履修して、教育に必要な人権意識を習得する。
3 年次	前期	地理学の必修科目（「人文地理学」「自然地理学」）の履修を通して、世界諸地域の人間活動の特質及び気象学・地形学の知識を習得する。さらに、日本史及び外国史のアドヴァンスト選択科目、及び地理学の選択科目の履修を通して、歴史・地理関係の知識の専門性を高める。専門演習が始まるので、自分の専門分野を見定め、研究テーマを模索しながら、専門的知識の習得に努める。教職科目では、「教育行政」を履修し、教育関係の法規を理解する。さらに学校インターンに参加し、教育現場を体験する。
	後期	地理学の必修科目「地誌学」の履修を通して、世界や日本諸地域に関する知識を習得する。さらに引き続き、日本史及び外国史のアドヴァンスト選択科目、及び地理学の選択科目の履修を通して、歴史・地理関係の知識の専門性を高める。専門演習では、自分の研究テーマを設定して、文献蒐集や研究発表に取り組み、専門的知識を高める。教職科目では、「教育方法」を履修し、多様な学習指導方法を習得する。さらに、前期に引き続き、学校インターンに参加して教育現場の体験を積む。
4 年次	前期	学外の教育実習で、教室での教授技法、学習指導案の作成要領を習得する。3年間で培った一般教養・専門教養・教職教養を基礎として、教育職に必要な知識力・教育技法を培う。授業展開では、基礎から発展への論理の組み立て方、発問法、手づくり教材のほかに、生徒の心理に対応した指導力を向上させる。専門演習では、卒業論文の作成に取り組み、研究発表や討論を通して、研究テーマへの理解を深化させ、一層専門的知識を高める。
	後期	教職実践演習で、教育職に就くための資質能力が学生自身の内面に形成されたかどうかを確認

	し、知識力・教育技能を定着させる。教育実習の経験を踏まえて、模擬授業の水準を向上させる。4年間の一般教養・専門教養・教職教養の履修成果を再検討した上で、知識を補充し、技能を磨く。専門演習では、卒業論文を完成させる。
--	---

<文学部> (高等学校教諭1種 公民)

各学年における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>本学の建学の精神を大学科目（選択必修）で学び、本学部の三指針を「人間学」（必修）で学ぶ他、本学と本学科の教職課程の理念・目的を「教職ガイダンス」において理解する。また、「アカデミックスキル基礎」（必修）でアクティブ・ラーニングの手法を身につける。それらと共に、共通科目や文学部イントロダクトリー科目で、人文・社会科学関係の幅広い教養を身につけ、そこから学生自身の専攻分野（メジャー）を考える。教職科目では、「教職概論」を履修して、教職の意義や職務内容等を理解し、教職選択の可否を自覚的に判断する。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、共通科目やイントロダクトリー科目・ベーシック科目で、人文・社会科学関係の教養を深め、学生自身の専攻分野（メジャー）を決定する。教職専門科目では、「教育原論」「教育心理」を履修して、教育をめぐる問題や教育心理学の基礎的知識を習得する。</p>
2年次	前期	<p>法律学、政治学及び経済学、社会学の4つの必修科目の中から2科目を履修し、さらに哲学、倫理学、宗教学の選択必修科目を1科目を履修して、各分野の概要を習得する。さらに、人文・社会科学関係のベーシック選択科目を幅広く履修し、専門的知識を習得する。教職科目では「社会科教育法Ⅰ」を履修し、学習指導案を作成するスキルを習得する。他に、「生徒・進路指導論：教職」「教育相談」を履修して、生徒指導や進路指導の問題と課題を理解し、学生自身の教育相談のあり方を構築する。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、法律学、政治学及び経済学、社会学の4つの必修科目の中から残り2科目を履修し、さらに哲学、倫理学、宗教学の選択必修科目を積極的に履修して、各分野の概要を一層広く習得する。さらに、人文・社会科学関係のベーシック選択科目を引き続き幅広く履修し、専門的知識を習得する。教職科目では「社会科教育法Ⅱ」を履修し、学習指導案作成のスキルを伸ばし、教育法の習熟を目指す。他に、「特別活動：教職」を履修して、教育に必要な人権意識を習得する。</p>
3年次	前期	<p>法律学、政治学及び経済学、社会学、哲学、倫理学、宗教学の選択科目の積極的な履修を通して、各分野の専門的知識を習得する。教職科目では「社会科教育法Ⅲ」を履修し、公民分野の教育法をさらに習得する。また、人文・社会科学関係のアドヴァンスト科目の一層の履修を通して、知識の専門性を高める。専門演習が始まるので、自分の専門分野を見定め、研究テーマを模索しながら、専門的知識の習得に努める。教職科目では、「教育行政」を履修し、教育関係の法規を理解する。</p>
	後期	<p>法律学、政治学及び経済学、社会学、哲学、倫理学、宗教学の選択科目の積極的な履修を通して、各分野の専門的知識を深める。さらに引き続き、人文・社会科学のアドヴァンスト科目の履修を通して、知識の専門性を高める。専門演習では、自分の研究テーマを設定して、文献蒐集や研究発表に取り組み、専門的知識を高める。教職科目では、「教</p>

		育方法」を履修し、多様な学習指導方法を習得する。
4年次	前期	学外の教育実習で、教室での教授技法、学習指導案の作成要領を習得する。3年間で培った一般教養・専門教養・教職教養を基礎として、教育職に必要な知識力・教育技法を培う。授業展開では、基礎から発展への論理の組み立て方、発問法、手づくり教材のほかに、生徒の心理に対応した指導力を向上させる。専門演習では、卒業論文の作成に取り組み、研究発表や討論を通して、研究テーマへの理解を深化させ、一層専門的知識を高める。
	後期	教職実践演習で、教育職に就くための資質能力が学生自身の内面に形成されたかどうかを確認し、知識力・教育技能を定着させる。教育実習の経験を踏まえて、模擬授業の水準を向上させる。4年間の一般教養・専門教養・教職教養の履修成果を再検討した上で、知識を補充し、技能を磨く。専門演習では、卒業論文を完成させる。

<文学部> (中学校教諭1種 社会)

各学年における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	本学の建学の精神を大学科目(選択必修)で学び、本学部の三指針を「人間学」(必修)で学ぶ他、本学と本学科の教職課程の理念・目的を「教職ガイダンス」において理解する。また、「アカデミックスキル基礎」(必修)でアクティブ・ラーニングの手法を身につける。それらと共に、共通科目や文学部イントロダクトリー科目で、人文・社会科学関係の幅広い教養を身につけ、そこから学生自身の専攻分野(メジャー)を考える。教職科目では、「教職概論」を履修して、教職の意義や職務内容を理解し、教職選択の可否を自覚的に判断する。考える。「法学」では、法律学の基礎を習得する
	後期	前期に引き続き、共通科目やイントロダクトリー科目・ベーシック科目で、人文・社会科学関係の教養を深め、学生自身の専攻分野(メジャー)を決定する。教職専門科目では、「教育原論」「教育心理」を履修して、教育をめぐる問題や教育心理学の基礎的知識を習得する。「社会学概論」では、社会学の基礎知識を習得する。
2年次	前期	日本史及び外国史、地理学の必修概説科目(「日本史概説Ⅰ」「西洋史概説Ⅰ」「東洋史概説Ⅰ」「地理学Ⅰ」)を履修し、各分野の概要を習得する。さらに、人文・社会科学関係のベーシック選択科目を幅広く履修し、専門的知識を習得する。教職科目では「社会科教育法Ⅰ」を履修し、学習指導案を作成するスキルを習得する。他に、「生徒・進路指導論:教職」「教育相談」を履修して、生徒指導や進路指導の問題と課題を理解し、学生自身の教育相談のあり方を構築する。
	後期	前期に引き続き、日本史および地理学の必修概説科目(「日本史概説Ⅱ」「地理学Ⅱ」)と、哲学、倫理学、宗教学の選択必修科目から1科目を履修し、各分野の概要を一層広く習得する。さらに、人文・社会科学関係のベーシック選択科目を引き続き幅広く履修し、専門的知識を習得する。教職科目では「社会科教育法Ⅱ」を履修し、学習指導案を作成するスキルを一層伸ばす。さらに、「特別活動:教職」で、教育に必要な人権意識を体得し、「道徳教育論」では、指導案を作成するなど道徳教育の基本的スキルを習得する
3	前期	人文・社会科学関係のアドヴァンスト選択科目、及び地理学の選択科目の履修を通して、歴史・地理・法律・政治・社会学・経済学・哲学・倫理学・宗教学各分野の知識の専門性を高める。専門演

年次		習が始まるので、自分の専門分野を見定め、研究テーマを模索しながら、専門的知識の習得に努める。教職科目では、「教育行政」を履修し、教育関係の法規を理解する。さらに学校インターンに参加し、教育現場を体験する。「介護体験」では、福祉の現場において介護の精神を学ぶ。
	後期	地理学の必修科目「地誌学」の履修を通して、世界や日本諸地域に関する知識を習得する。さらに引き続き、人文・社会科学関係のアドヴァンスト選択科目、及び地理学の選択科目の履修を通して、各分野の知識の専門性を高める。専門演習では、自分の研究テーマを設定して、文献蒐集や研究発表に取り組み、専門的知識を高める。教職科目では、「社会科教育法Ⅲ」を履修し、学習指導案作成や模擬授業を通してより高いレベルのスキルを磨き、「教育方法」では多様な学習指導方法を習得する。さらに、前期に引き続き、学校インターンに参加して教育現場の体験を積む。
4年次	前期	学外の教育実習で、教室での教授技法、学習指導案の作成要領を習得する。3年間で培った一般教養・専門教養・教職教養を基礎として、教育職に必要な知識力・教育技法を培う。授業展開では、基礎から発展への論理の組み立て方、発問法、手づくり教材のほかに、生徒の心理に対応した指導力を向上させる。専門演習では、卒業論文の作成に取り組み、研究発表や討論を通して、研究テーマへの理解を深化させ、一層専門的知識を高める。
	後期	教職実践演習で、教育職に就くための資質能力が学生自身の内面に形成されたかどうかを確認し、知識力・教育技能を定着させる。教育実習の経験を踏まえて、模擬授業の水準を向上させる。4年間の一般教養・専門教養・教職教養の履修成果を再検討した上で、知識を補充し、技能を磨く。専門演習では、卒業論文を完成させる。